

## キャピタル アセットマネジメント 山崎年喜社長に聞く

# 安定した政治体制で経済成長続くベトナム 期待される市場分類の変更

「勤勉で勉強熱心、個人消費の中心がマイカー購入に移り始めた高度成長期の日本によく似ている」のが今のベトナム。高い経済成長率と規制緩和で投資マーケットとして注目も高まっている。ベトナムファンドの運用で実績をあげるキャピタル アセットマネジメントの山崎年喜社長に今後のベトナム経済の展望を聞いた。

――ベトナムの現状は。経済発展の基本条件は政治の安定。ベトナムは「四柱」(書記長、国家主席、首相、国会議長の4人)と呼ばれる集団指導体制を敷くことで権力バランスが取れておりアセアン諸国の中でも特に政治は安定していると思う。

――経済はどうか。

「ドイモイ政策」(1986年～)による経済改革とともに発展してきた。2021年に開催した第13回共産党大会で、2045年(建国100年)までに先進国入りすることを目標に掲げ、2024年の短期目標についてはGDP成長率6.0～6.5%、1人当たりGDP4,700～4,730ドル、GDPに占める製造業の割合24.1～24.2%など、社会・経済発展の指標を設定している。

足元では、こうした単年度の社会経済発展計画目標15項目すべてを達成している。具体例を挙げるとGDP成長率7%以上、1人当たりGDP約4,700ドル以上、都市部の失業率4%未満などだ。好調な経済を支えるのが2024年の速報値で成長率8.24%を記録した工業・建設業で、中でも加工・製造業が好調。サービス業(同7.38%)

は、インバウンドで観光業が活性化し宿泊・飲食サービスがけん引した。

――今後の展望は

ベトナムにとって米国が最大の輸出先だ。第一次トランプ政権時は航空機の大型購入契約などで貿易不均衡の是正努力が評価された。しかし、中国からベトナムに生産拠点を移す動きもあり、対米黒字削減の圧力は増すだろう。液

化天然ガスや農畜産物、航空機などの購入で貿易バランスを取る必要が出てくると予想される。それでも、好調な経済を背景にした公共交通・道路など物流網などのインフラ整備や企業の高い設備投資意欲、所得上昇による個人消費の伸びなど内需にも支えられ、高い経済成長を維持すると見られる。

――投資先としての魅力は。

2024年11月に株式取引の前に資金の預け入れを求める「プレファンディング」規制が撤廃。今後、英語による情報開示の充実も進めるなど、海外投資の呼び込みに本腰をあげ始めた。ベトナムはFTSEやMSCIなどの指数では「フロンティア市場」に分類されているが、環境整備に乗り出したことで「新興市場」への格上げが現実味を帯びつつある。「新興市場」への格上げは、海外投資家の新規参入を促し、株式市場の流動性向上をもたらすなどプラスの効果が期待され、成長が続くベトナムに対する投資の魅力がさらに高まると期待されている。

(宮島智章)



山崎年喜(やまざき・としのぶ)氏=鹿児島県出身、1986年明大卒、日興証券入社、ロンドン、香港勤務、日興アセットマネジメント、PCAアセットマネジメント、三井住友DSアセットマネジメントを経て現職。